

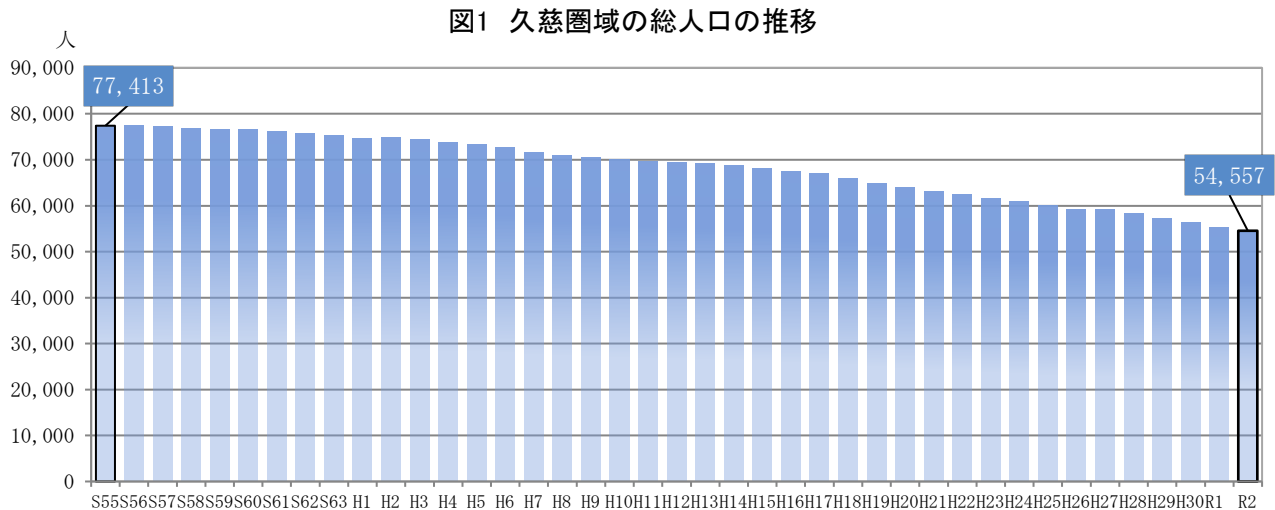
人口動態統計等から見る久慈圏域の状況

※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

I 人口の推移

1 総人口の推移

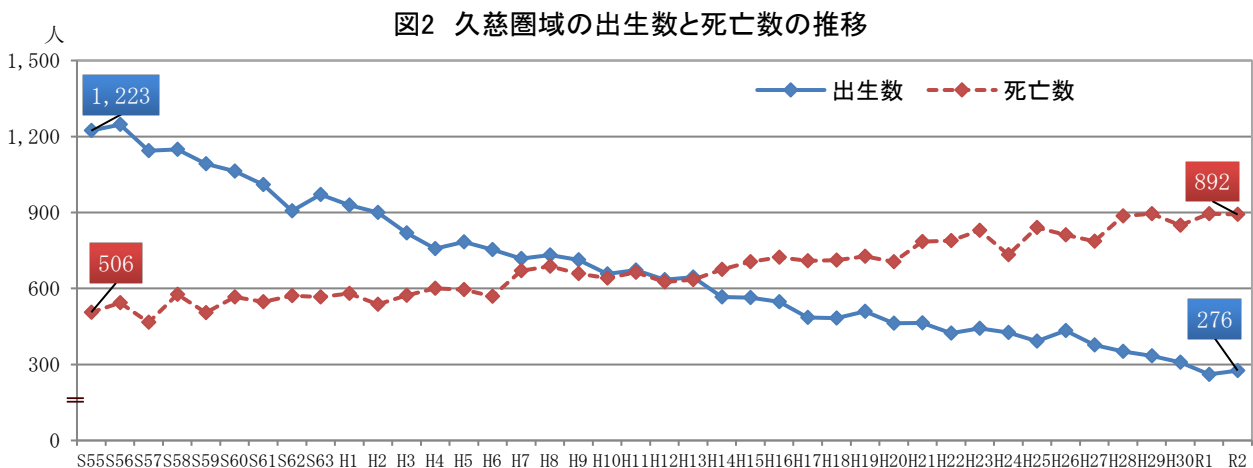
久慈圏域の人口は、昭和55年の77,413人から、令和2年は54,557人と約40年で22,856人減少しています(図1)。



2 人口構成の推移

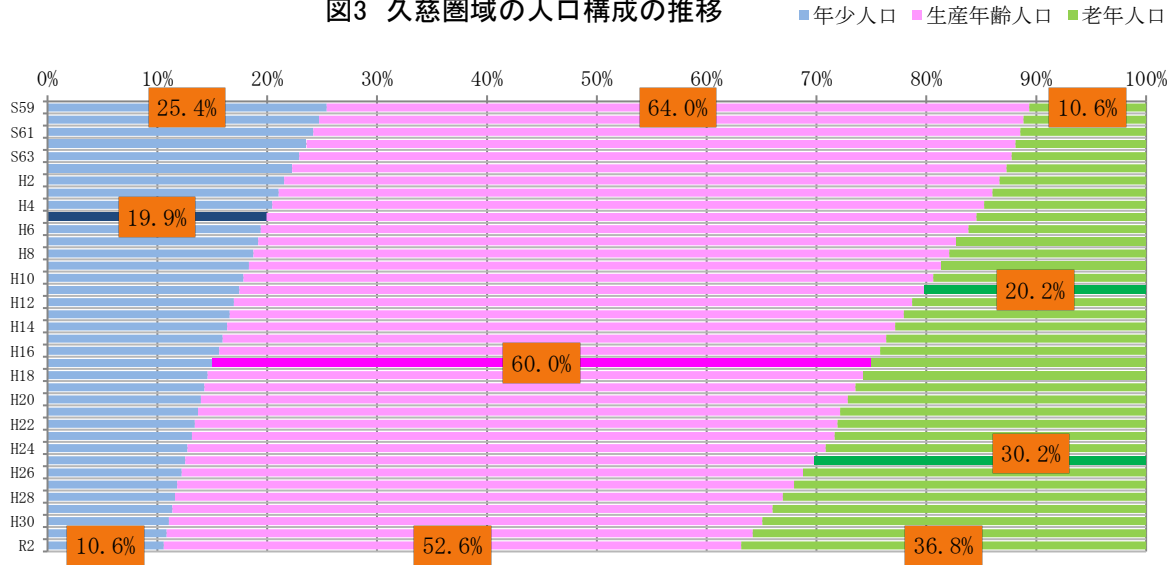
久慈圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には1,223人でしたが、令和2年は276人と947人減少しました。一方、死亡数は、昭和55年の506人から年々増加し、令和2年は892人となっています(図2)。

出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成14年にマイナスに転じ、年々その差が広がっています。令和2年の自然増加数は616人減でした。



久慈圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。年少人口は平成5年に19.9%となり、令和2年は10.6%まで低下しています。老年人口は平成11年に20.2%、平成25年に30.2%となり、令和2年は36.8%と3人に1人が65歳以上という状況です。

図3 久慈圏域の人口構成の推移



3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

久慈圏域の世帯数は、昭和55年の20,512世帯から令和2年には22,445世帯と増加しています(図4)。総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年の3.57人から令和2年は2.43人と減少しています(図5)。なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査による数値、それ以外は住民基本台帳による数値となっています。

図4 久慈圏域の世帯数の推移

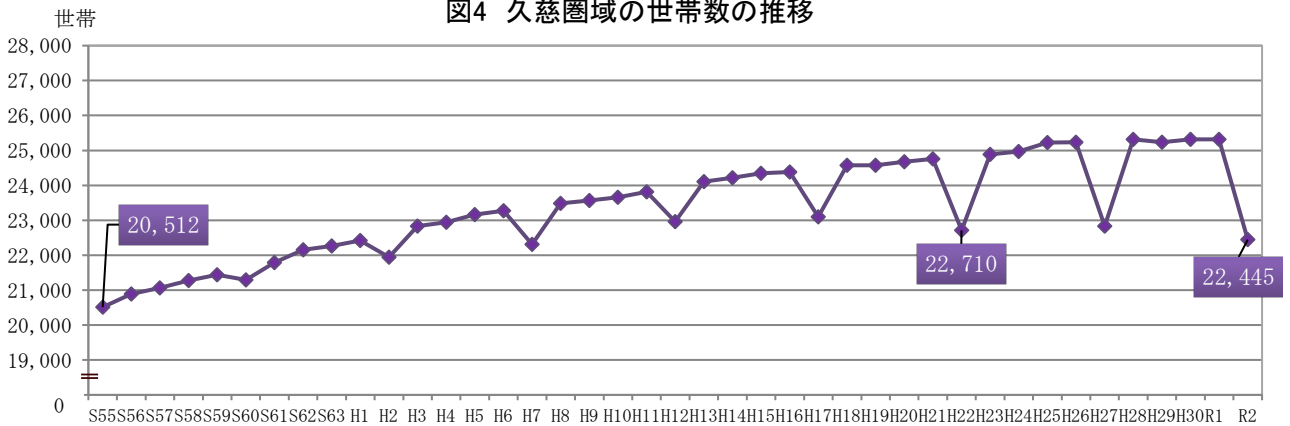
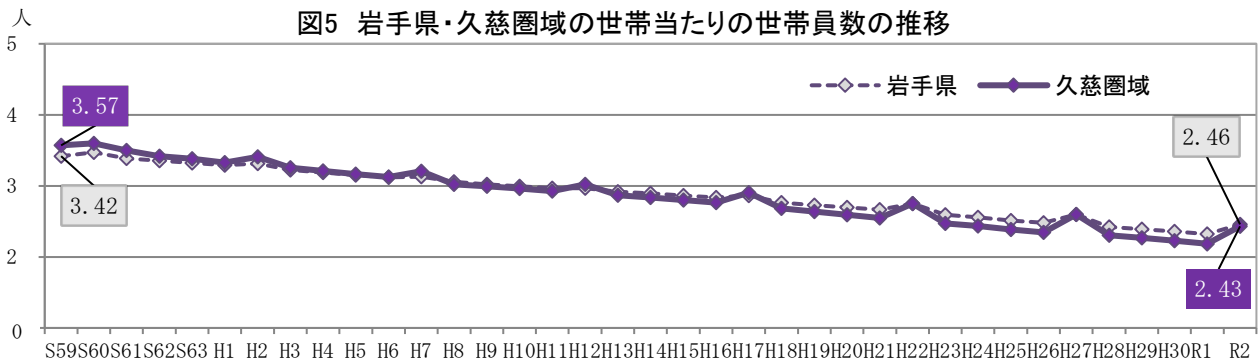


図5 岩手県・久慈圏域の世帯当たりの世帯員数の推移

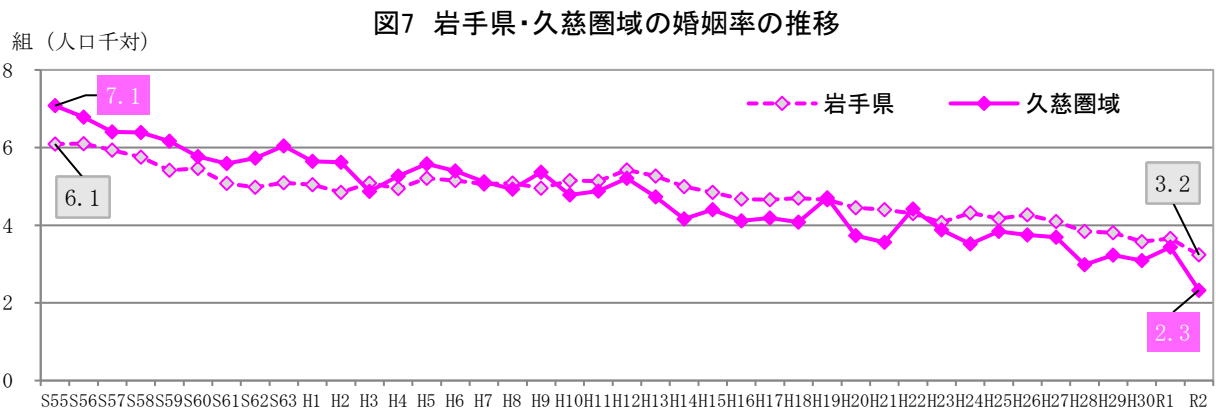
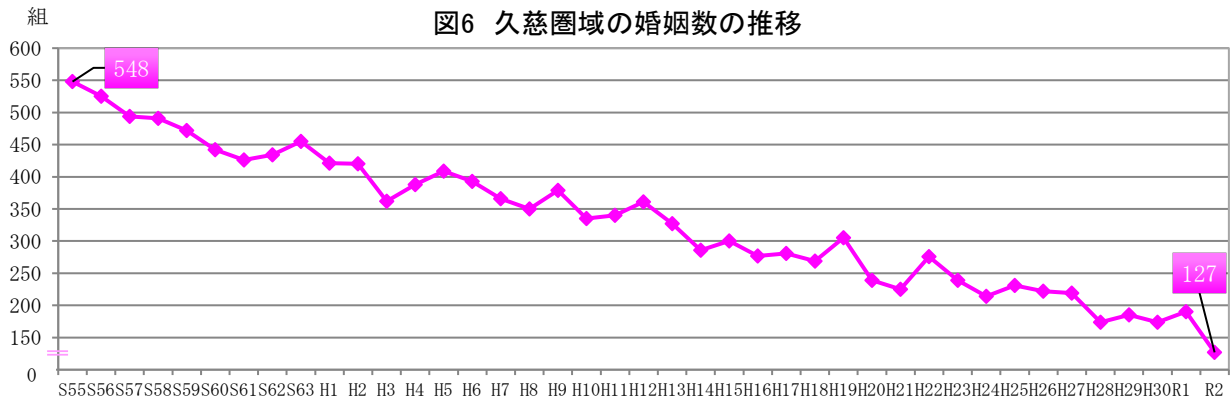


II 婚姻及び離婚の推移

1 婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、久慈圏域の婚姻数は昭和55年の548組から減少傾向にあり、令和2年は127組となりました(図6)。

人口千人当たりの婚姻率は、昭和55年から低下傾向にあり、平成10年からは岩手県全体より低く推移しています(図7)。



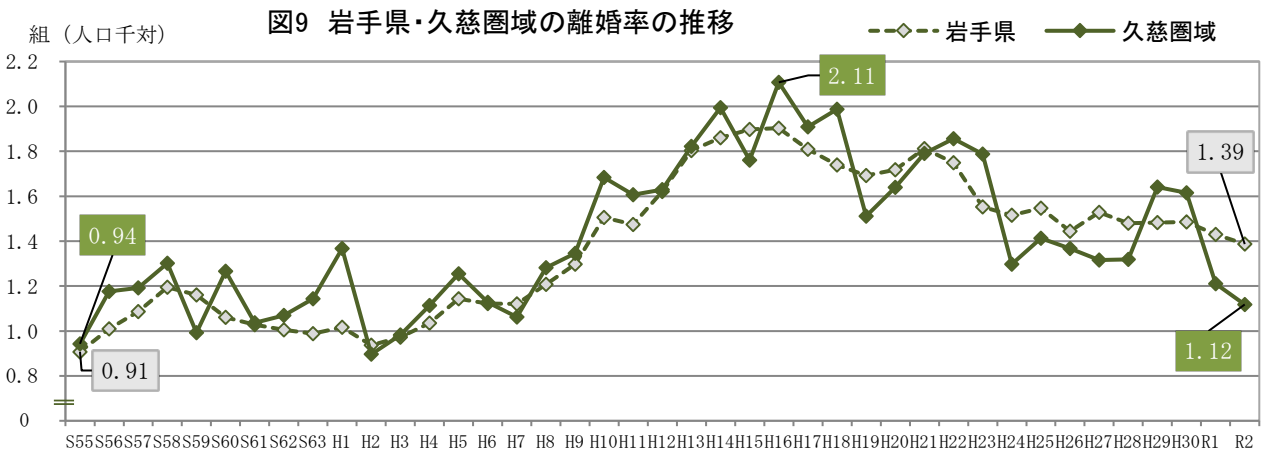
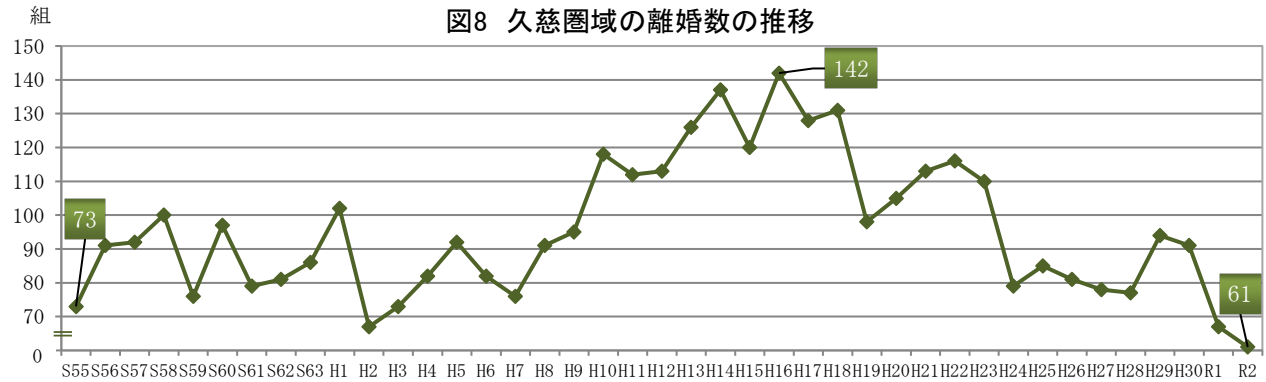
2 婚姻率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

3 離婚数及び離婚率の推移

久慈圏域の離婚数は、昭和55年の73組から増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成16年142組がピークとなっています。翌年から減少傾向となっていました。令和2年は61組でした(図8)。

人口千人当たりの離婚率は、平成16年の2.11をピークに減少傾向にあり、令和2年は1.12と岩手県全体を下回りました(図9)。



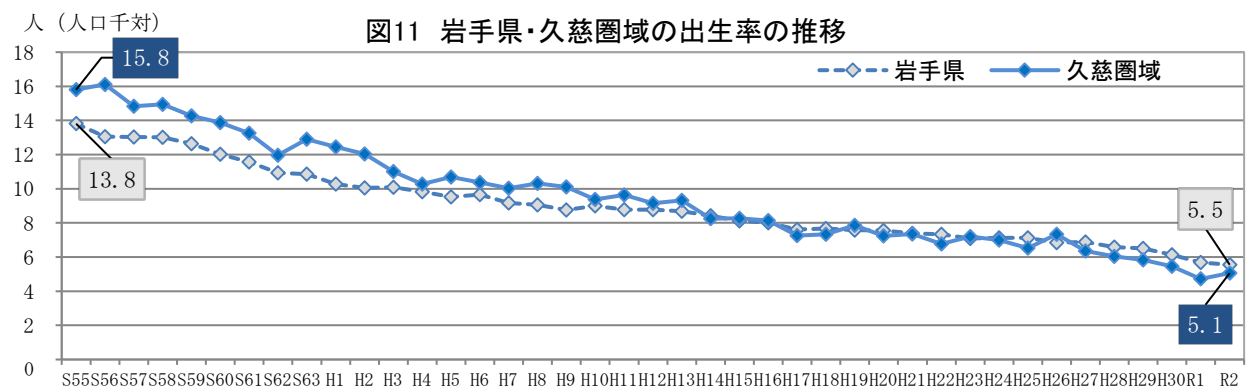
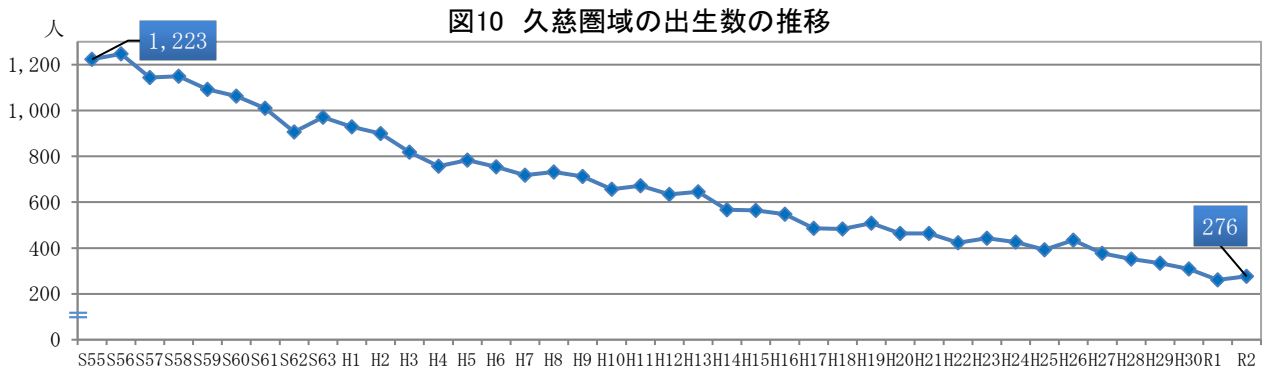
4 離婚率の圏域別順位 (令和2年低率順)

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

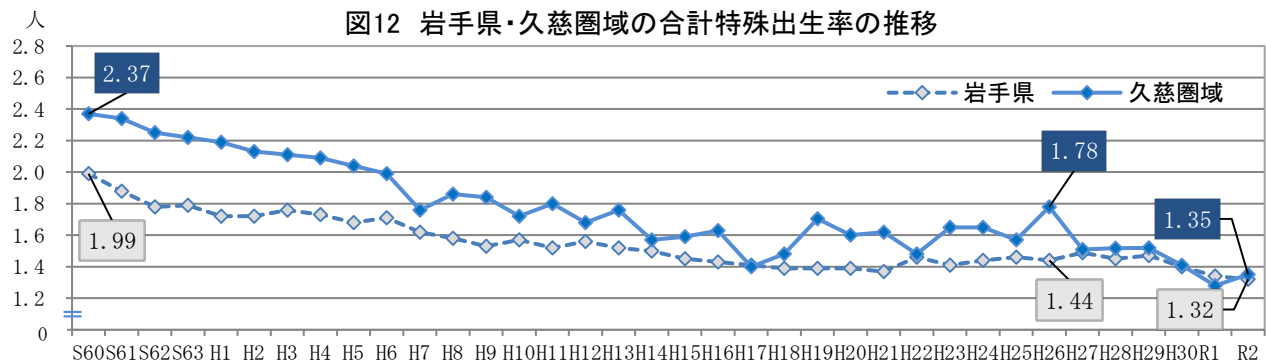
1 出生数及び出生率の推移

久慈圏域の出生数は、昭和55年に1,223人でしたが、令和2年は276人と947人減少しています(図10)。人口千人当たりの出生率も、昭和55年の15.8から低下傾向にあり、令和2年は5.1でした。(図11)。



2 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、久慈圏域は昭和60年から平成17年にかけて低下傾向でしたが、平成18年以降は1.6前後で推移し、平成26年は1.78に上昇しましたが、平成27年以降低下して横ばいとなっています(図12)。令和2年は1.35でした。



3 合計特殊出生率の圏域別順位 (令和2年高率順)

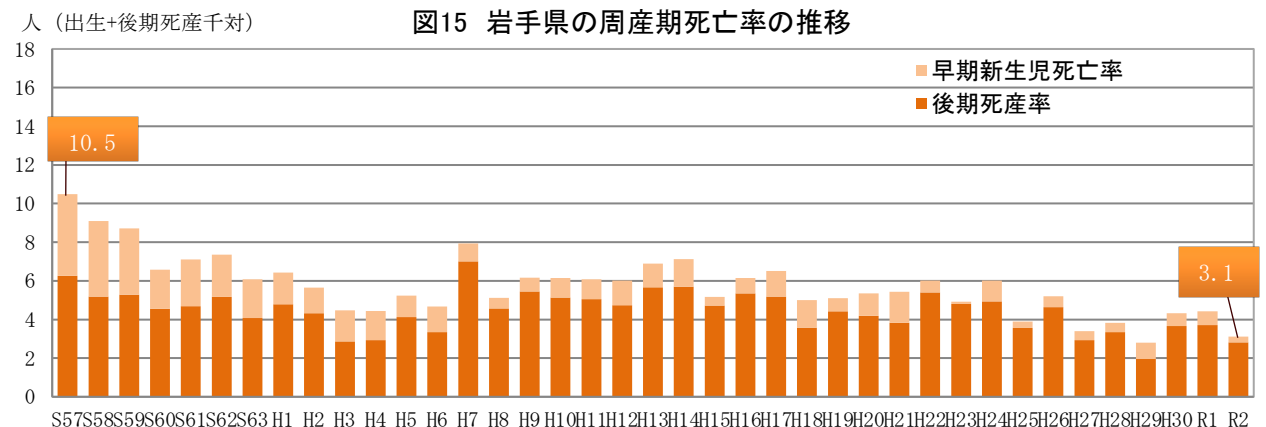
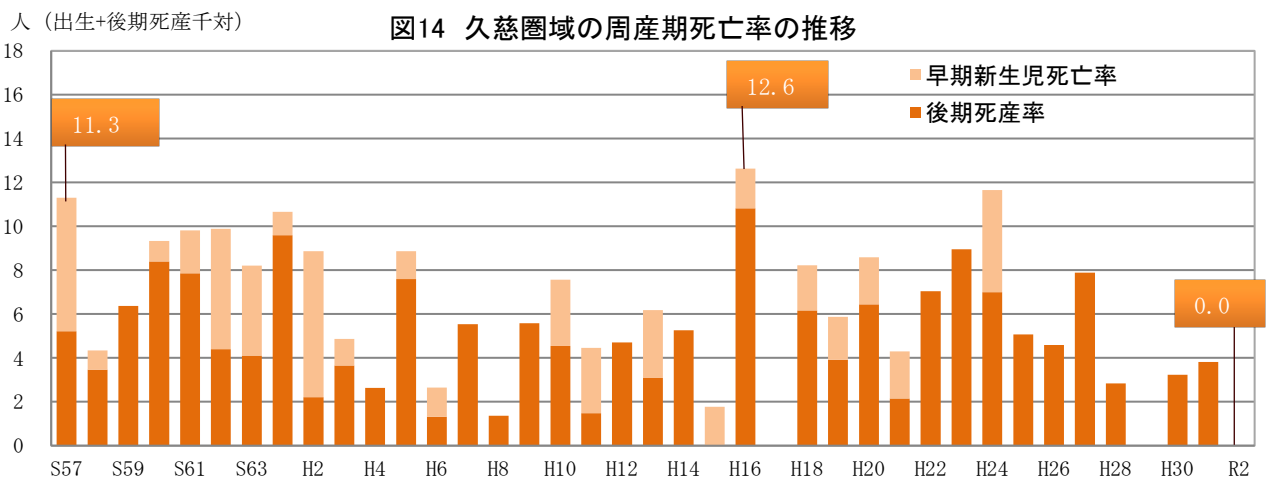
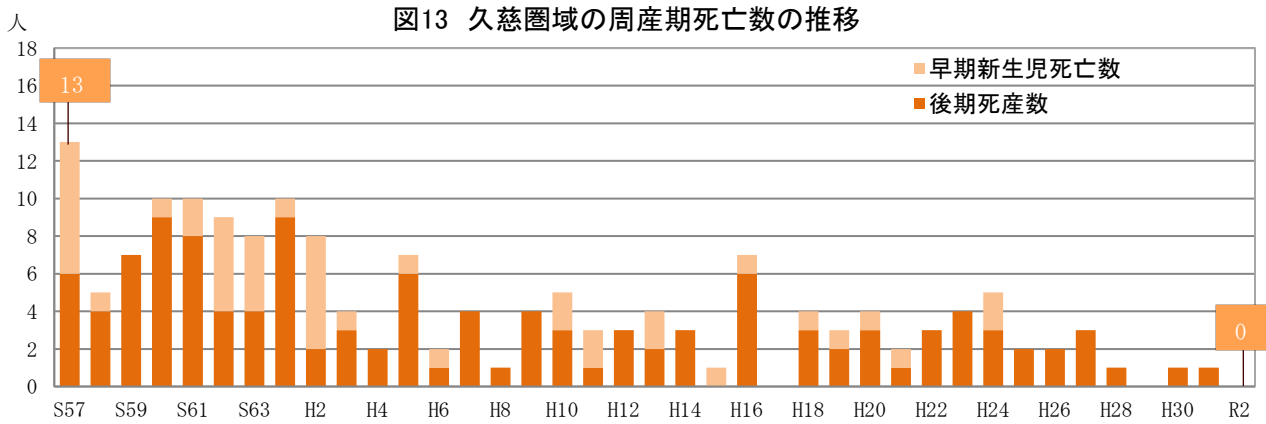
	岩手県	1位	3位	4位	5位	6位	8位	9位		
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

4 周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産（以下、「後期死産」と言います。）及び出生後満7日未満の死亡（以下、「早期新生児死亡」と言います。）を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率です。

久慈圏域の周産期死亡数は、昭和57年13人から平成3年以降5人以下で推移しています（平成5年、16年を除く）。令和2年は0人でした。内訳としては後期死産が多く、早期新生児死亡は、平成3年以降0～2人となっています（図13）。

周産期死亡率は、昭和57年の11.3から大きく上昇と低下を繰り返して、平成16年は12.6と昭和57年以降最も高くなり、令和2年は0.0でした。岩手県全体と比較すると、近年では平成21年、26年、28年、29年、30年、令和元年、令和2年を除き久慈圏域が高く推移しています（図14、図15）。



5 死産数・率の推移

久慈圏域の死産数は、昭和56年の68人をピークに増加と減少を繰り返しながら減少傾向となり、令和2年は3人でした。内訳は平成9年以降人工死産が多い状況が続きましたが、平成18年以降、人工死産数は10人以下で推移しています。(図16)。

出生千人当たりの死産率は、久慈圏域では昭和55年から上昇と低下を繰り返しながら推移しており、令和2年は岩手県に比べ10.8と低く推移しています。岩手県全体を見ると、平成20年以降30.0以下で推移しており、久慈圏域の死亡率が高い年次が多い状況です(図17、図18)。

図16 久慈圏域の死産数の推移

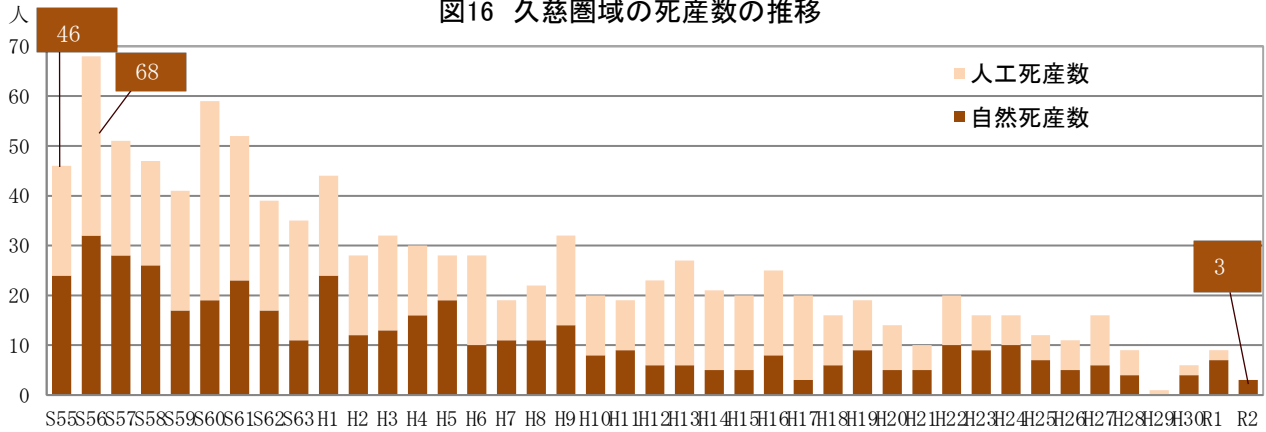


図17 久慈圏域の死産率の推移

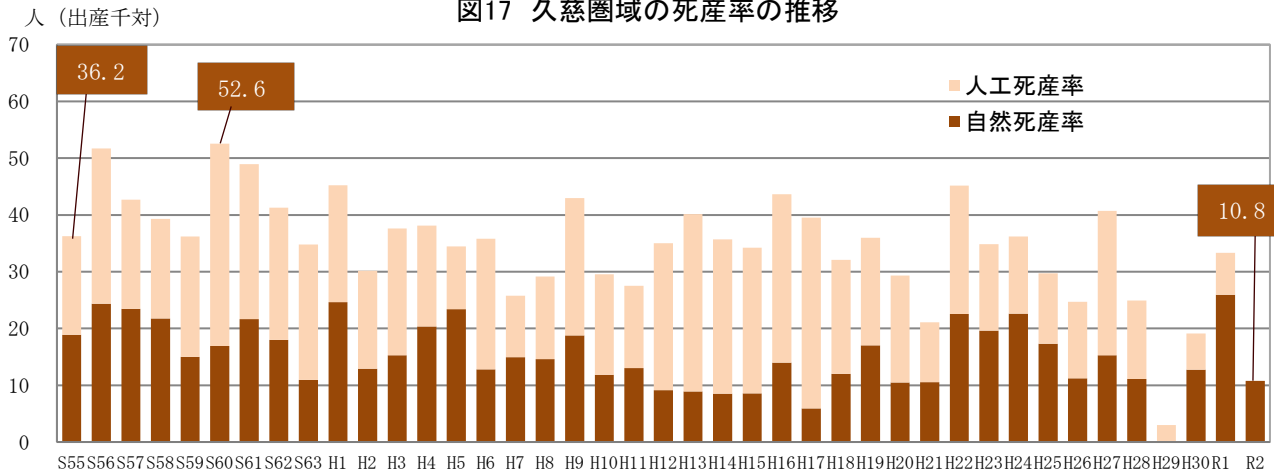
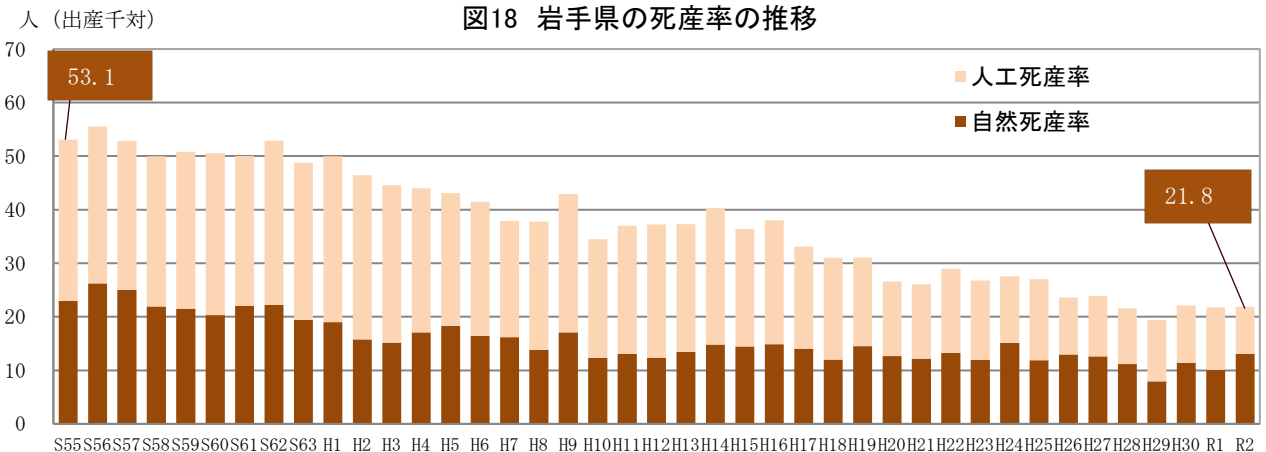


図18 岩手県の死産率の推移

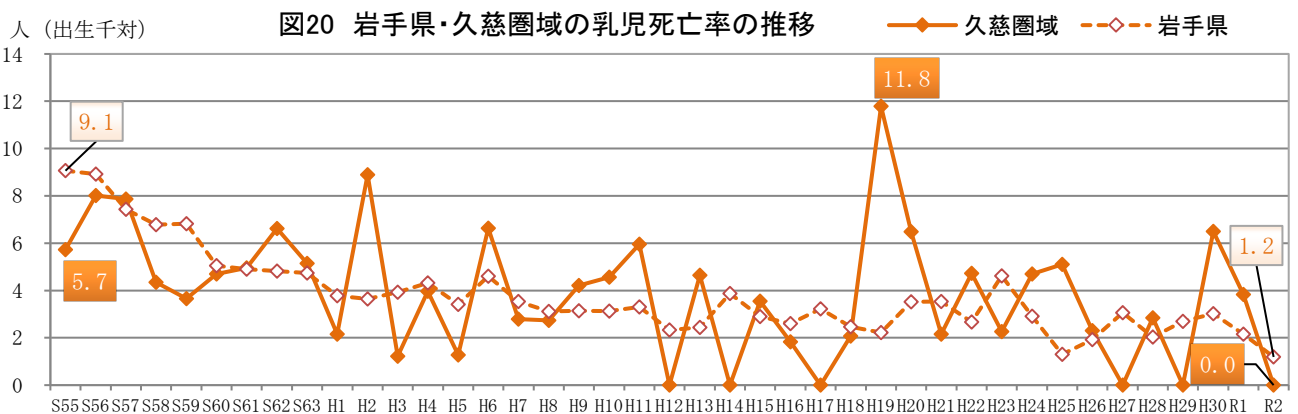
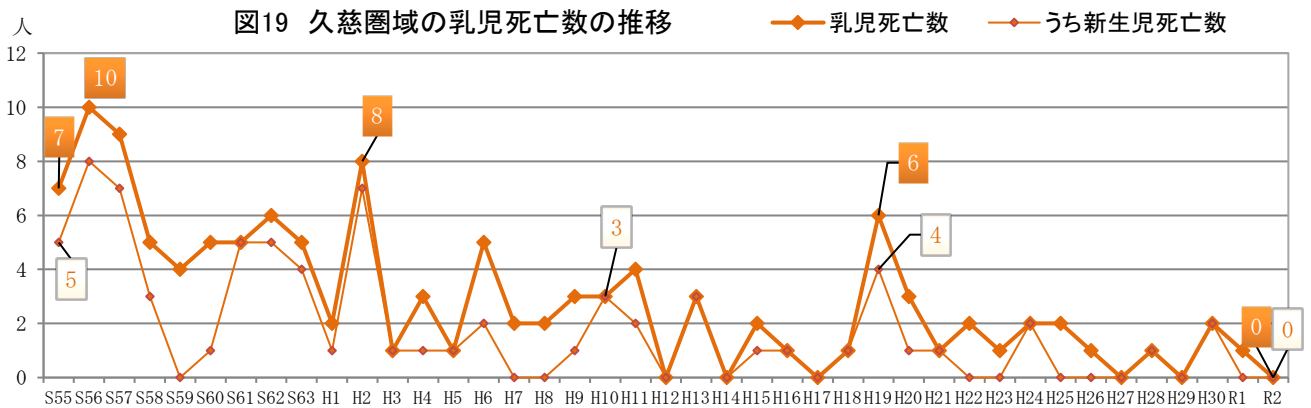


6 乳児死亡数・率の推移

久慈圏域の乳児死亡数は、昭和56年、平成2年に山があり平成3年以降は平成19年を除き5人以下で推移し、令和2年は0でした(図19)。

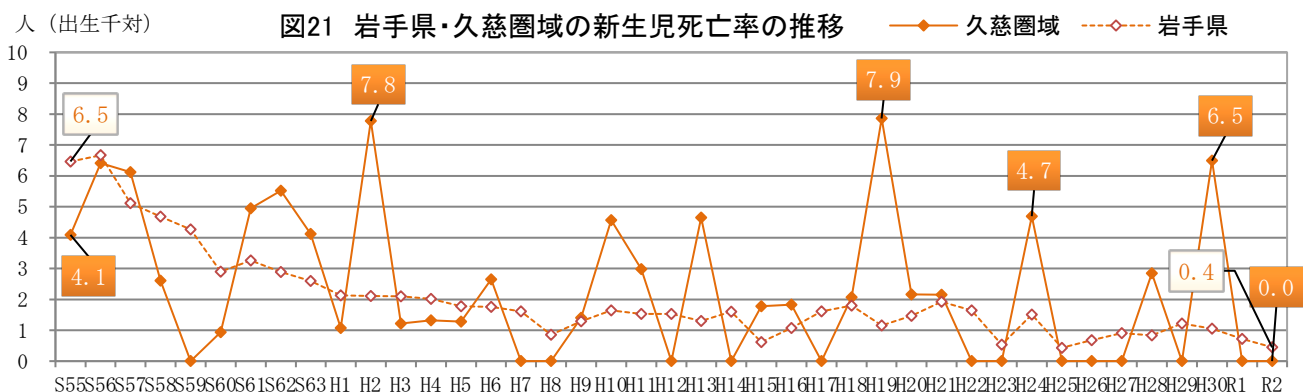
乳児死亡数のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡は昭和55年の5人から平成元年以降2人以下で推移していますが、平成10年は3人、平成19年は4人と高い年次もあります。令和2年は0でした。

出生千人あたりの乳児死亡率は、昭和55年以降岩手県全体より大きな幅で上昇と低下を繰り返しています。平成19年が11.8と最も高い死亡率となり、以降死亡率が0~5で推移し、令和2年は0.0でした(図20)。



7 新生児死亡率の推移

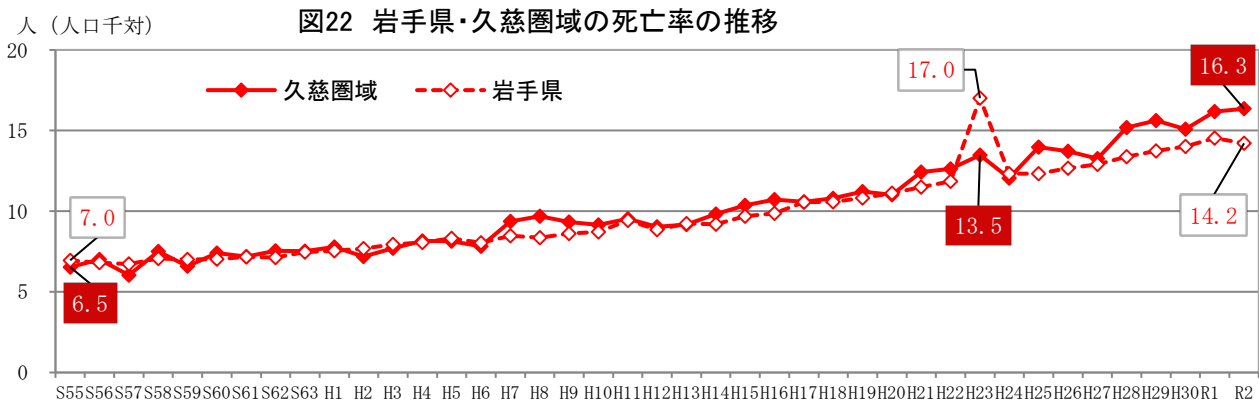
久慈圏域の出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年の4.1から大きく上昇と低下を繰り返しています。0.0となる年もありますが、平成30年は6.5と高率となっております。令和2年は0.0でした(図21)。



IV 死亡の推移

1 死亡率の推移

久慈圏域の人口千人当たりの死亡率は、昭和55年から近年まで岩手県全体の死亡率に近い値で推移しており、令和2年は16.3でした。なお、平成23年は東日本大震災津波による影響により、久慈圏域は13.5、岩手県全体は17.0となっています(図22)。



2 年齢調整死亡率の推移

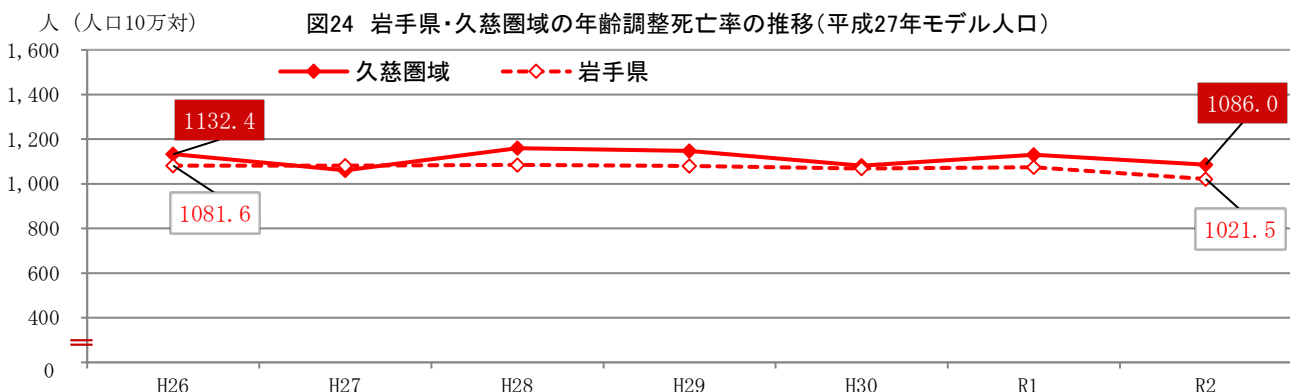
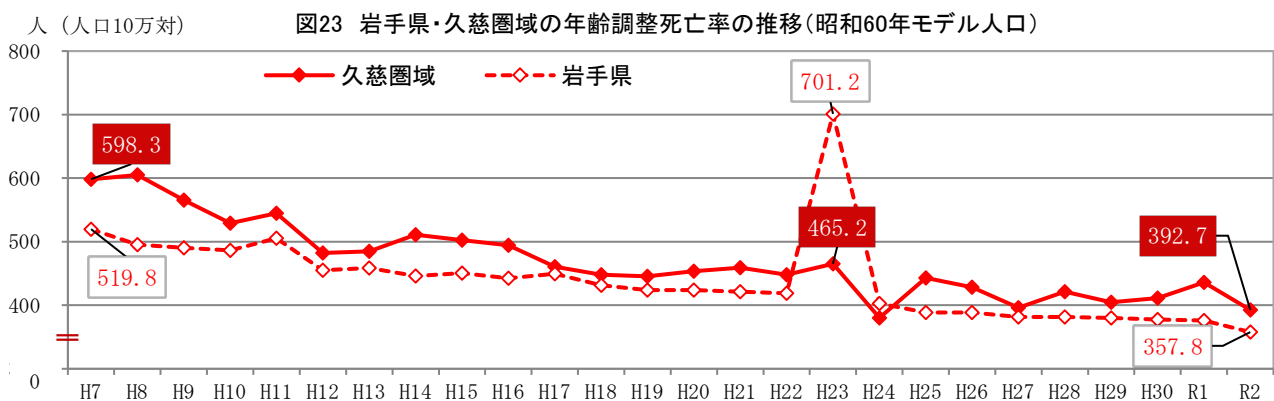
(図23)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※で見ると、久慈圏域は、平成7年の598.3から令和2年は392.7と低下傾向にあります。岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。

なお、(図23)(図24)を見ると、二戸圏域はほとんどの年次で岩手県全体より高く推移しています。

※年齢調整死亡率：年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

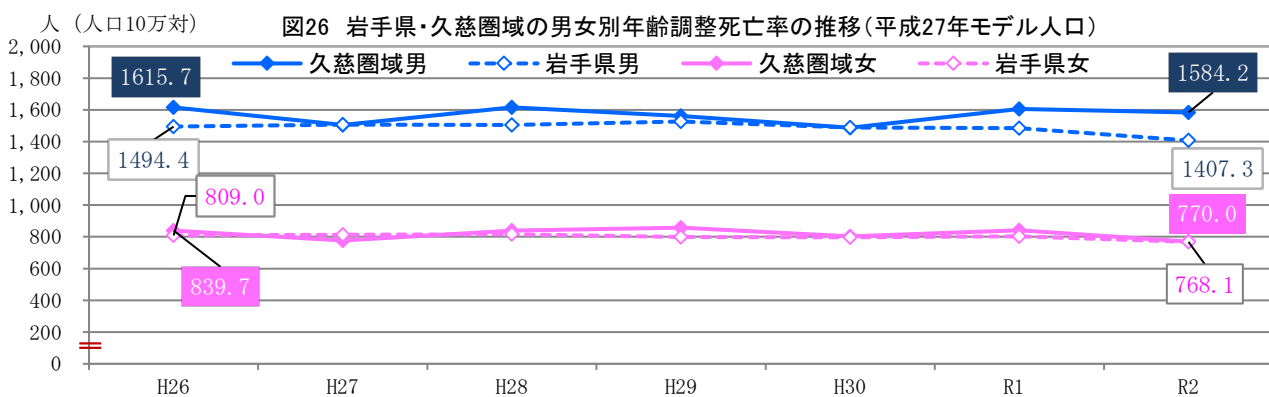
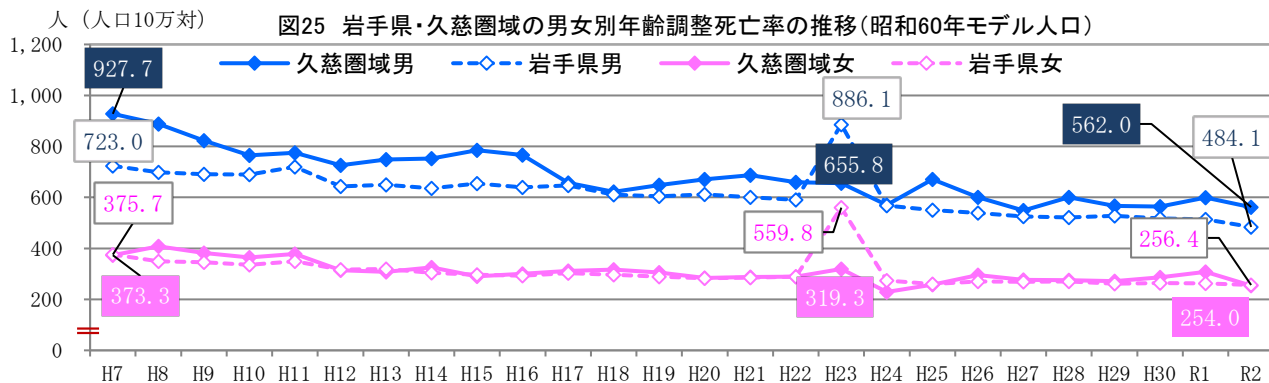
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、久慈圏域は不詳人口を除いて算出しています。



3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図25)(図26)に示します。
 (図25)を見ると、久慈圏域の男性は、平成7年の927.7から令和2年は562.0にまで低下しています。女性は、平成7年の373.3から令和2年は254.0にまで低下して推移していることがわかります。
 なお、(図25)(図26)を見ると、久慈圏域の男性は年ごとの変動はあるものの、岩手県全体より高く推移しています。女性は岩手県全体とほぼ同程度で推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・久慈圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1	
	久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎	
		年齢調整死亡率	157.2	104.7	59.4	25.2	24.3	
女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3	
	久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	77.1	36.2	29.9	17.2	9.9	

区分(平成27年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8	
	久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	408.4	330.1	195.2	98.6	56.0	
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6	
久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	肺炎		
	年齢調整死亡率	197.6	136.7	105.1	51.4	38.7		

<参考> 令和2年死因別死亡数順位

岩手県・久慈圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と久慈圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっております。女性は第1位「悪性新生物」から第2位「心疾患」までは同じ順位となっておりますが、第3位は岩手県は「老衰」で久慈圏域は「脳血管疾患」、第4位は岩手県は「脳血管疾患」で久慈圏域は「老衰」、第5位「肺炎」は同じ順位となっております。

区分			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		岩手県	死亡数	2,562	1,254	889	487	428
		久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		久慈圏域	死亡数	122	93	55	28	14
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		岩手県	死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
久慈圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	肺炎		
久慈圏域	死亡数	97	83	62	41	21		

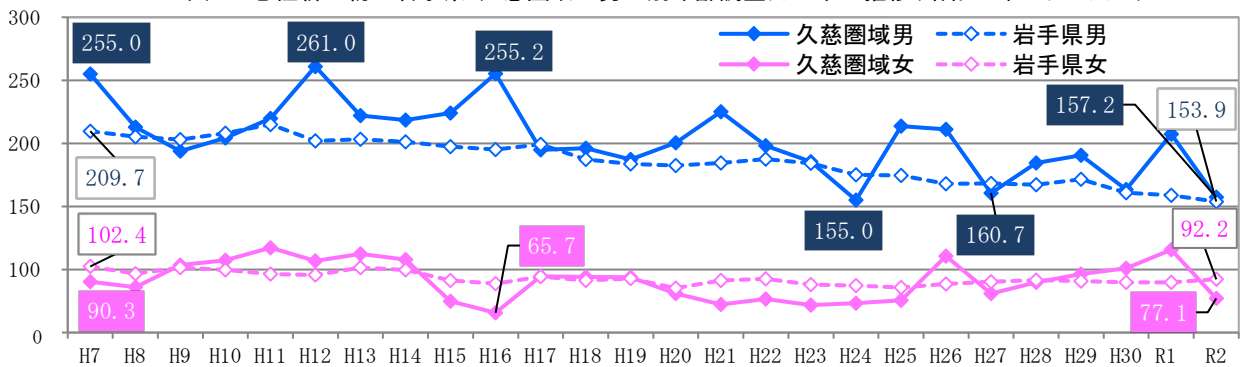
5 悪性新生物の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図27)(図28)に示します。

(図27)を見ると、久慈圏域では、男性は平成7年、12年、16年に250.0を超える死亡率となり、また、岩手県全体よりも高い死亡率で推移していますが、平成17年からはやや低下し、平成24年、27年は岩手県全体より低い死亡率となりました。令和2年は157.2と岩手県全体よりやや高く推移しています。女性は、平成7年の90.3から上昇傾向にありましたが、平成15年には低下し、平成16年に65.7と平成7年以降最も低くなりました。平成20年からは岩手県全体より低く推移し、平成26年は上昇したものの、平成27年、28年は岩手県全体より低い死亡率となりましたが、平成29年から令和元年は再び県の数値を上回っています。令和2年は77.1と岩手県全体より低く推移しています。

(図28)を見ると、久慈圏域は男女ともに平成26年と令和元年に大きく上昇しているものの、概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

人(人口10万対) 図27 悪性新生物の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(昭和60年モデル人口)



人(人口10万対) 図28 悪性新生物の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(平成27年モデル人口)

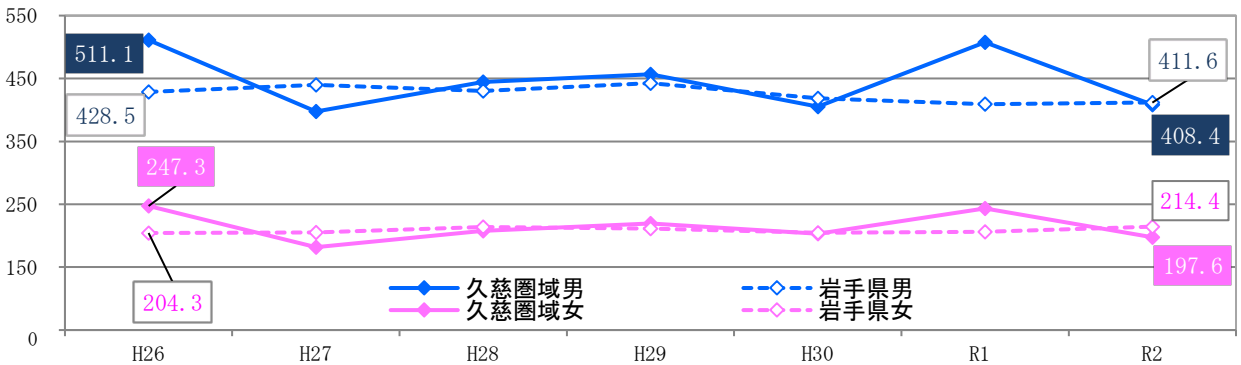


表1 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・久慈圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

		区分(昭和60年モデル人口)	第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6	
	久慈圏域	死因	大腸	肺	胃	
		年齢調整死亡率	39.0	34.7	14.6	
女性	岩手県	死因	大腸	乳	肺	
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4	
	久慈圏域	死因	大腸	乳	肺	
		年齢調整死亡率	13.1	9.2	8.5	
		区分(平成27年モデル人口)	第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2	
	久慈圏域	死因	肺	大腸	胃	
		年齢調整死亡率	94.4	74.0	43.1	
女性	岩手県	死因	大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1	
	久慈圏域	死因	大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	31.8	25.4	14.8	

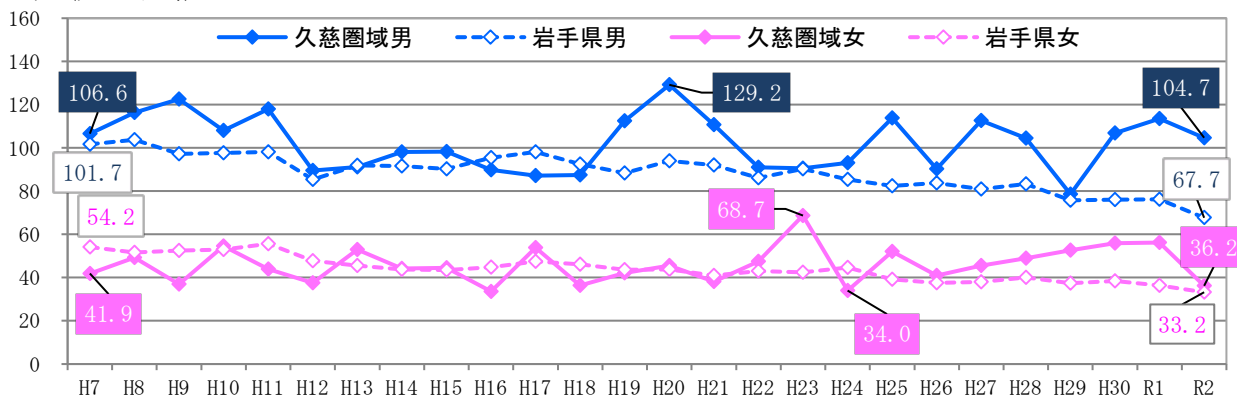
6 心疾患の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

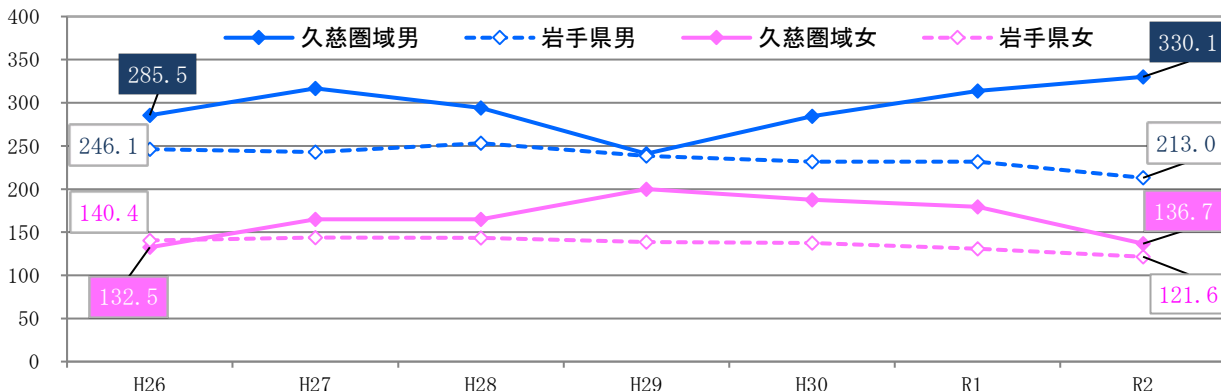
(図29)を見ると、久慈圏域では、男性は平成12年からほぼ横ばいで推移していましたが、平成20年に129.2と最も高くなり、翌年からは上昇と低下を繰り返しています。また平成19年以降は岩手県全体より高く推移しています。令和2年は104.7でした。女性は、平成7年から上昇と低下を繰り返しながらも横ばいで推移しています。平成23年に68.7と最も高くなりましたが、平成24年に一度低下し近年は再び上昇傾向にあります。令和2年は36.2でした。

(図30)を見ると、久慈圏域は男女ともに岩手県全体より高く推移している年次が多く、令和2年も高く推移しています。

人(人口10万対) 図29 心疾患の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(昭和60年モデル人口)

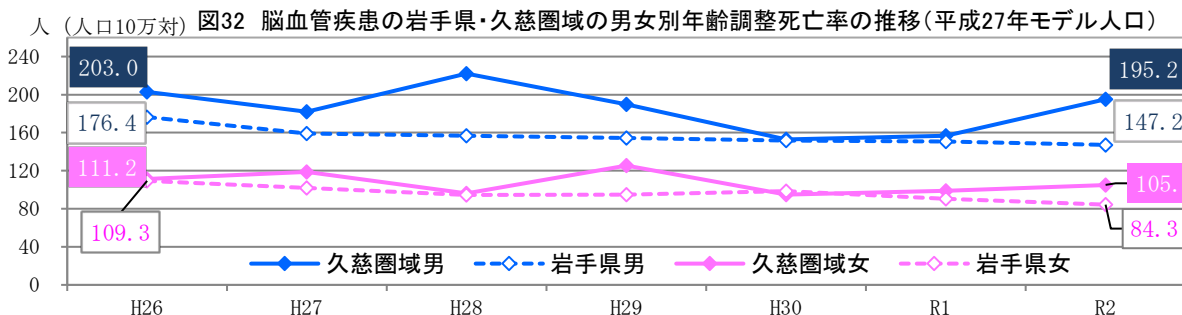
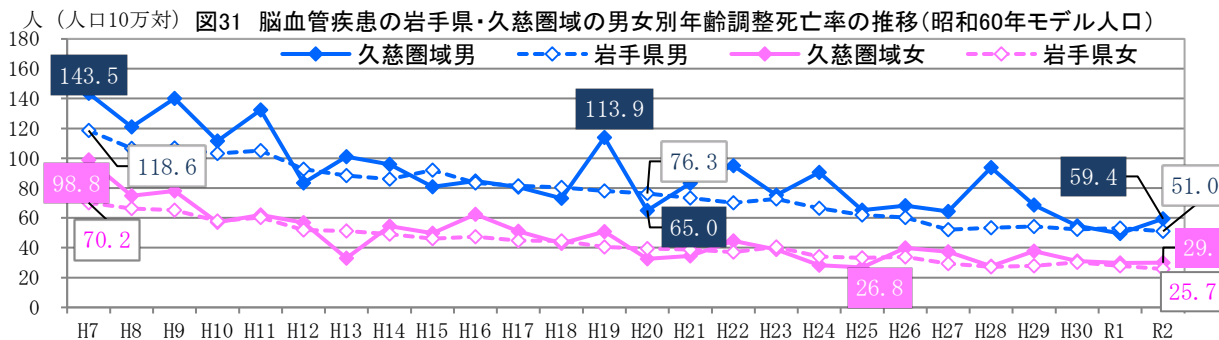


人(人口10万対) 図30 心疾患の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(平成27年モデル人口)



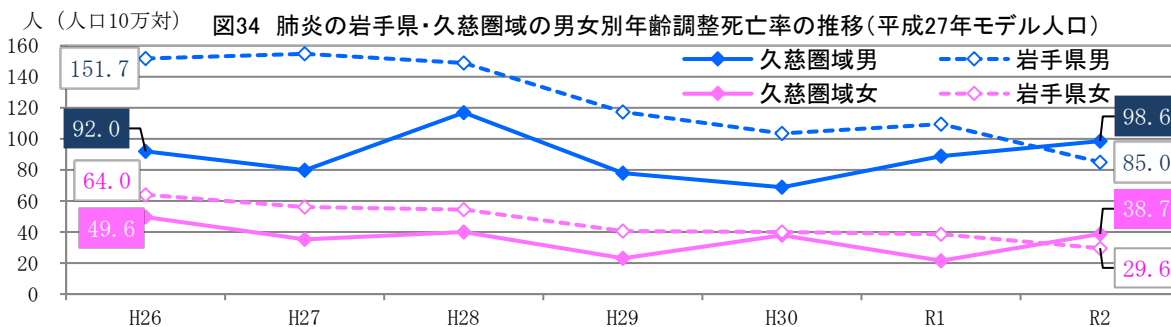
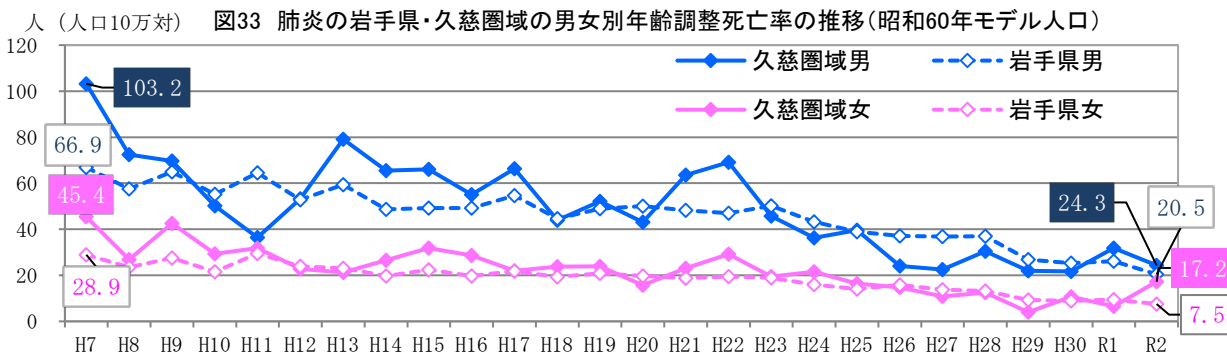
7 脳血管疾患の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図31)(図32)に示します。
 (図31)を見ると、久慈圏域では、男性は平成7年143.5から上昇と低下を繰り返しながら平成18年まで低下傾向でしたが、平成19年は113.9に上昇しています。平成20年は65.0と岩手県全体の76.3を下回りましたが、平成21年以降岩手県全体を上回っています。令和2年は59.4となりました。女性は、平成7年98.8から低下傾向にあり、平成25年は26.8と最も低い死亡率となりましたが、翌年上昇し、岩手県全体を上回っています。令和2年は29.9となりました。
 (図32)を見ると、久慈圏域の男性は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。女性は高く推移している年次が多く、令和2年も高く推移しています。



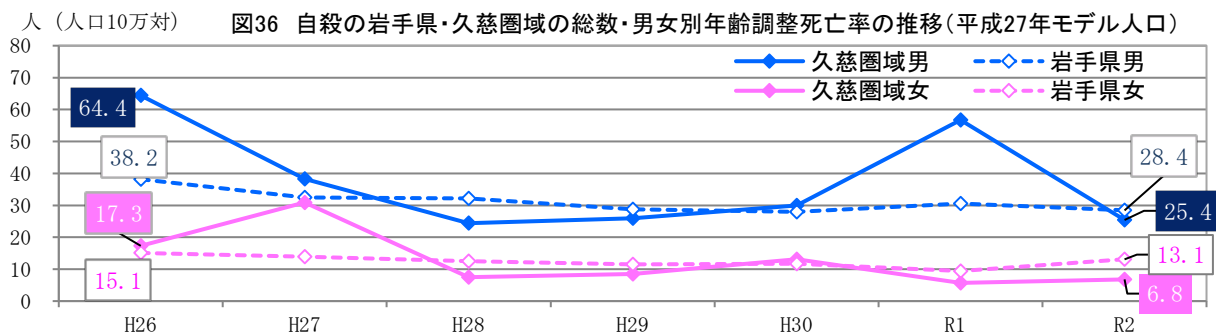
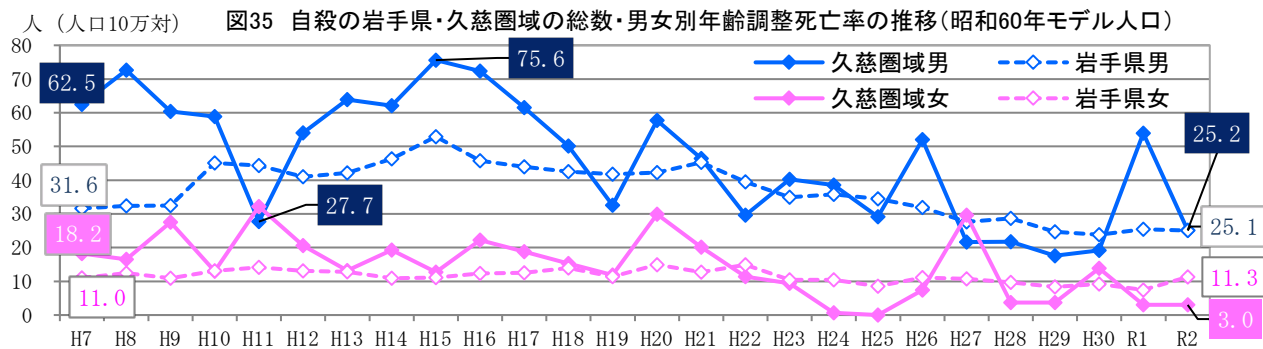
8 肺炎の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図33)(図34)に示します。
 (図33)を見ると、久慈圏域では、男性は平成7年から11年にかけて低下し、平成12年、13年には大きく上昇しています。平成14年以降上昇と低下を繰り返しながら低下傾向にありました。近年では平成21年、22年に急な上昇の後低下傾向を示していました。令和2年は24.3と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年から10年にかけて上昇と低下を繰り返し、平成11年以降は緩やかな低下傾向となっていますが、令和2年は17.2と岩手県全体より高く推移しています。
 (図34)を見ると、久慈圏域は男女ともに岩手県全体より低く推移している年次が多いものの、令和2年は高く推移しています。



9 自殺の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図35)(図36)に示します。
 (図35)を見ると、久慈圏域では、男性は平成7年の62.5から11年に27.7まで大きく低下しましたが、平成12年から上昇して平成15年にピークとなっています。平成16年から19年にかけて低下しましたが、平成20年以降も大きく上昇と低下を繰り返して、令和2年は25.2と岩手県全体よりやや高く推移しています。女性は、平成7年から岩手県全体の女性より高い死亡率で上昇と低下を繰り返して推移しています。近年では平成20年をピークに上昇し、平成21年以降は低下傾向となり、平成27年と平成30年には高い値を示しています。令和2年は3.0と岩手県全体より低く推移しています。
 (図36)を見ると、久慈圏域の男性は年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性も年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。



10 老衰の岩手県・久慈圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県全体・久慈圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図37)(図38)に示します。
 (図37)を見ると、男女とも大きく上下しながら推移しています。近年は男女とも岩手県全体より低い傾向にあります。令和2年は、男性が12.2、女性が9.9でした。
 (図38)を見ると、久慈圏域は男女ともに年ごとに変動があるものの、いずれの年次も岩手県全体より低く推移しています。

